



年 組 名前

道新 ワークシート

十勝を落花生の主産地に

芽室の生産者、機械化促進



機械を使って行われた落花生の種まき＝芽室町（井上浩明撮影）

落花生の生産は、町内の農業者10戸でつくる「十勝任事業組合」（L.P.）が

収穫や選別効率的に

【芽室】落花生の国内最大の産地化を目指し、町内の農家が生産体制を強化するため、機械化を進めている。今春から種まきの機械を導入し、秋には収穫や豆の選別も自動化する方針。作業の効率化によって増産体制を整え、今年は昨年より5トン多い約20トンの収穫を見込む。

（鈴木理詞）

担う。今年は自動の種まき機2台を購入した。

4月下旬から5月中旬まで種まきを実施。14、15の

両日には、L.P.に所属する橋本真和さん（39）が種まきを行った。機械は時速1キロで進み、等間隔で種を植えることができる。今年は昨年の2倍の0・8秒に作付けを増やし、橋本さんは「手作業よりスピードが上がった。今年も元気に育つてほしい」と話す。

L.P.は昨年より1秒多い計4秒に作付けし、収穫は9月下旬に予定。豆の収穫や選別にも機械を導入する。栽培した落花生は、「トカチ・グランナッツ」プロジェクトの一環で商品化したレトルトのゆで落花生に使われており、L.P.は今年もゆで落花生の生産に協力する予定。

落花生栽培は、千葉と茨城が主産地だが高齢化や後継者難などで生産が減少しているといい、十勝への期待は高まっている。L.P.の藤井信一代表（37）は「機械化を進め、毎年少しずつでも栽培の規模を拡大していく」と力を込め

2020年6月1日（月） 朝刊 帯広・十勝版 13P（記事は再編集しています）

①主要生産地の千葉県と茨城県の生産が減少している理由を書きなさい。

②国内最大の生産地になるために必要なことを、十勝平野の農業の特徴をもとに考え説明しなさい。